

成長する ITS 市場に向けて

Aiming at the Growing ITS Market

江原 実
EHARA Minoru

歴史上、文明の発展と道路交通にかかわるインフラストラクチャの発達是不可分な関係にありました。20世紀に入り、人類は自動車によって魅力あるライフスタイルを獲得してきましたが、一方では、地球環境問題、交通事故の増大、交通渋滞によるロスなどの社会的課題を負うことになりました。こうした社会問題を最先端の情報通信技術などを活用して解決するとともに、新しい21世紀型社会を築こうとするのがITS(Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム)です。これは、人の操作に依存する車や全国に広がる道路に神経網を張り巡らし、人と道路と車両を一体とした活力のあるシステムに高めていこうとする壮大な構想であり、世界の英知を結集し、相互に学びあい、世界標準を確立することによってその実現を目指しています。

今日までの関係者の多くの努力によって、その一部はVICS(Vehicle Information and Communication System : 道路交通情報通信システム)やETC(Electronic Toll Collection system : ノンストップ自動料金収受システム)などで現実のものになっています。2003年には、第二東名及び名神や大都市の高速道路などで、スマートウェイが導入されようとしています。また、多くの地域で、様々なITS応用システムの実証実験が行われ、まさにITSの本格的実用化時代の到来は目前となっています。

当社は、ITS応用システムについて多くの実証実験に参加し、その実用化に向けた多様な技術を蓄積してきました。この“東芝レビュー”では、今年1月号にITSについてのコア技術をご紹介いたしましたが、加えてこの特集では、当社が深くかかわってきた最近のITS応用システムをご紹介いたします。

当社は、コンサルテーションから、SI(System Integration), サービスまで一貫したワンストップソリューション事業や、データセンター、IT(情報技術)プラットフォームで代表されるe-ネット事業への取組みを強化しています。更に、衛星通信、デジタル放送、デジタル家電、システムLSIなどの最新技術で新しい道を切り拓(ひら)いています。こうした最新の技術やノウハウは、従来から当社が進めてきた道路監視、交通管制、車載用機器についての蓄積された技術と相乗効果を発揮して、ITS応用システムの更なる高度化に貢献できると確信しています。